委員長からのメールです

「当たり前のことを、徹底的に」

香取さんの総会講演で学んだ

広報調査委員会委員長　福山裕治

新年度4月に入り、今年も総会の季節になりました。日遊協九州支部でも4月10日に190人にも及ぶ多くの来場者を迎え、支部総会が実施されました。

今年の年間スケジュールもオープン執行会や会員勉強会を予定しています。その中でも、7月に予定している持ち出し執行会は日遊協東北支部（宮城県）での開催になります。昨年は東日本大震災復興支援活動で、仙台市では津波で全滅した松林再生のための植林や南三陸町の海水浴場復活のためのガレキ等の撤去に多くの支部会員企業が参加されました。復興が思うように進んでいない東北の現状や業界の課題を、オープンに話し合うことが持ち出し執行会の目的になります。

日遊協九州支部の会員数は昨年2社増えて、平成26年4月現在で51社になります。今年も多くの会員メンバーが会合に出席してくださり、懇親を深めています。最近では、日遊協支部活動に参加したいのですが、日程を教えてくださいという会員企業の声が増えているようです。

（左から）福山委員長、香取貴信氏、樋口支部長

また、年一回の総会の楽しみは、毎年多彩な講師陣を迎えての講演会です。今年は、著書『社会人として大切なことはみんなディズニーランドで教わった』で有名な、有限会社 香取感動マネジメントの香取貴信さんです。テーマ「私の体験したディズニーマジック・感動を呼ぶサービス!!」の中で、「誰にでもできる当たり前のことを、誰にも負けないくらい徹底的に行うこと」、このフレーズが一番印象に残りました。香取さん曰く、「私たちが東京ディズニーランドで働く中で、凄く大事にしているミッションがたった一つあります。今、目の前にいらっしゃるお客様が、パークを出るときに、振り返って『今日は楽しかったね。ディズニーランドに来てよかったね。また来よう』と言って貰えたら、それが私たちの幸せであり、喜びだ」と胸を張っていました。近年、内閣府「国民経済計算（GDP統計）」に基づくサービス業（第三次産業）の占める割合は、7割弱の水準になり、益々存在価値が高まっています。

樋口支部長体制で2期目を迎える今年度も、「日遊協ってなに?その原点から問い直したい」。もう一度目的を明確に定めて、リスタートを切ろうと始めた活動も誰のための、何のための成果を出すかが少しずつ見えて来たように思います。

「相手の気持ちが分かれば、直ぐに行動する」という、香取さんの言葉に樋口支部長との共通点を感じました。

総会の最後は懇親会で締め括りです。懇親会には本部から庄司会長はじめ各県団体代表や理事の方々に出席して頂き、盛大に開催されました。樋口支部長を中心に、九州支部役員と会員メンバーが目的を共有する懇親会の話題はパチンコ産業の過去を振り返り、未来について語り合うことです。

これからも、明るい未来を仮想できる知恵が、日遊協という横断的な組織だからこそ出せると確信しています。